

巻頭言

「よい仕事」が果たした歴史的役割

平本 哲男 (ワーカーズコープ・センター事業団理事長)

協同労働の「よい仕事思想」

「労働者は企業の主人公になれるのか」の問いに始まった私たちの運動は、「働くものが運営する事業体」という日本には存在しなかった「労働者協同組合」の扉を開かせました。そして特筆すべきは、みんなが参加し責任を分かち合って働く「協同労働」という「新しい働き方」に行きついたことでした。この新しい働き方「協同労働」が一昨年「労働者協同組合法」として結実したことは、私たちのみならず働く人たちの希望となっていることに誇りを感じています。

私たちの40数年の歴史は「出資の原則」「気づきを大切に、話し合いの徹底と合意による運営」を「全組合員経営」と定め、「よい仕事」を最も重要な組織理念に位置付け「仕事おこし」に向かう歴史でした。労働者協同組合原則のトップには、…「生活と地域の必要と困難、課題を見出し、人と地域に役立つ仕事をおこし」その仕事を通じて「働く人々の成長と人々の豊かな関係性を育むことが「よい仕事」…とうたわれています。

「雇用された労働」からの脱却は、苦闘の歴史でしたが、この「よい仕事思想」を基にした、自由を得た働き手たちが、能動性を発揮して織りなす仕事の数々の

成果は、地域の支持と共感を得ていきました。「顧客満足度・サービスの売り買い」で測られていた仕事の評価から、「利用者・地域・働くもの同士の協同」という新しい仕事の基準を切り開き、協同組合にふさわしい経営方針として「全組合員経営」を基礎に「共感の経営」へと進みました。

近年の「子ども食堂・地域食堂」「フードバンク」や「誰でも役割が発揮できる現場創り」等の実践に向かう原動力の原点は、この「よい仕事」の理念に根差しています。

「よい仕事」が自治体の制度・政策を変化させる

今、この「よい仕事」を基盤にした活動が、制度と結びついて地域や自治体の変化をつくり、市民が担う本来の自治へ向かい始めています。組合員の「地域を良くしたい・困っている人の応援をしたい」との思いをもとにした現場の取り組みが、仕事の枠組みを少しずつ広げ、地域のネットワークを本格的に動かし始めています。

そして委託や制度上の制約から多くは事業とは別枠で「社会連帯活動」として取り組まれてきた「よい仕事」の一部が、

市民の多数が関わる取り組みに発展し、市民権を得て、その活動を事業として位置づける自治体が広がっています。

私の経験の中では、福岡県春日事業所の不登校の子どもの居場所として始まった「中高生ステーション」の取り組みが評価され、福岡市の施策に取り入れられました事例があります。「気づき」を基に「こんなことが出来たらいいな」という思いで運動を始めることが極めて大切であり、その先行事例として教訓的でした。

北海道では、旭川市児童館の「子ども食堂」が評価を受け「子どもの貧困対策事業」として、全道179自治体すべてに「子ども食堂」を立ち上げるための「立ち上げ相談・運営相談」として制度化され、ワーカーズコープが受託しています。

千葉県富里市では、困窮者支援事業を行っていますが、産地であるニンジンの「葉」を使って市民向けに染物教室を開講し、利用者がスタッフとして就労体験する枠組みが自治体から認められるようになっていきます。

近年、全国規模で行われている「子ども食堂・フードバンク・フードパントリー」等様々な財政措置がなされ、公的なものに発展しています。子ども食堂は全国で1万か所を超えているようですが、国民的な「よい仕事」のちからづよい表現だと思います。原則にある「労働と福祉を中心とする制度・政策をより良いものに」が「よい仕事」に依った取り組みを契機に、制度・政策の質の転換が起き、原則への接近が始まっています。

私たちは地域の主人公になれるのか

いま「協同労働」の実践は「社会連帯経営」に進み、地域の応援をもらう段階から、市民の方々と「一緒に・協同して」の段階に入り、現場を「みんなのおうち」へ転換し「協同総合福祉拠点」創りに至っています。

労働者協同組合法第一条は「意欲と能力に応じた就労の機会が確保されていない現状」から「市民が協同労働で仕事を起こし、様々な地域課題の解決と就労の場を創設し、持続可能な地域社会の実現に資する」と目的を定めていますが、私たちの理念と実践が法律の基本概念となって反映されています。

40数年の実践で事業は多様化し高度化し、「当事者主権」「子どもを真ん中に」「利用者をお客さんにしない」「誰もが安心して働ける」等、様々な協同の理念を深めてきましたが、振り返ると一貫してその根底には「よい仕事思想」が、「導きの糸」として存在していることに気づかされます。かつての「労働者は企業の主人公になれるのか」の問いかけから、今や「私たちは地域の主人公になれるのか」の問いに挑戦する時代を迎えるに至りました。

法制化は、「共生と協同の21世紀」に向かう上で、依存と従属から脱却し、市民が自分の足で立って事を成す「覚悟と自覚」を求めていると思います。その壮大で雄大な構えの中枢に「よい仕事」を据えた実践を、組合員の皆さんと一緒に、一步一步進めていきたいと決意して、巻頭言とします。